

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家
「 青少年自立支援者のための研究交流フォーラム 」
実践事例集

事例No. 1

本事例についてのお問い合わせは

群馬県自閉症協会所属ボランティアサークルあすなる会 ボランティアリーダー 大島 朋子
または 群馬県自閉症協会 会長 山田 智子

までお願いいたします

団体名 (個人名)	群馬県自閉症協会所属ボランティアサークル あすなる会 群馬県自閉症協会
団体(個人) 所在地	〒376-0013 群馬県桐生市広沢町3-3843-10 群馬県自閉症協会(山田方)
TEL番号	090-9139-2889
FAX番号	なし
メールアドレス	ukkusan.125.mato@iris.ocn.ne.jp
記載者の職・氏名	ボランティアリーダー 大島朋子 サブリーダー 石井美どり 湯浅みのり

○あすなる会ボランティア活動について

あすなる会は群馬県自閉症協会(社団法人日本自閉症協会群馬県支部より、平成19年に本部組織改編により改称)所属ボランティアサークルとして20年近い活動を積み上げている。社会人や県内の学生を中心とした活動に始まり、群馬県立保育大学の学生を中心に活動を続け、平成20年度からは群馬県内の各大学・専門学校の学生と社会人アドバイザー(あすなる会OB)による運営で現在に至っている。

平成20年度は、ボランティアリーダー1名(東京福祉大学)、サブリーダー2名(群馬社会福祉大学)を中心に、年間を通して自閉症児者の余暇活動をサポートしている。

主な活動は以下の通りである。

1. 運動の集い(体育館・屋外の小集団の活動の支援)
2. 夏季療育キャンプ・海合宿
3. 運動会・クリスマス会

また、初めて自閉症児者と活動するボランティア参加者のために群馬県自閉症協会の保護者が実施するボランティア研修会を通して、自閉症の基本的な理解と支援のあり方について学んでいる。キャンプなどの活動に際しては事前に保護者やボランティア同士のミーティングを通じて、準備にあたっている。

【1】運動の集い

- ◆目的…①自閉症児・者の運動を通しての集団的余暇活動
②保護者同士の親睦形成
③ボランティアとのふれあい
- ◆年齢によって活動日を分けている。

- ◆参加者：担当ボランティア＝1：1 → マンツーマンを理想としている
ボランティアはその他に、フリーボランティア（経験豊富な人）を配置し、参加者や担当ボランティアのフォローをして、一人一人のペースで活動できるようにしている。
- ◆活動内容…子ども：仕切りを使うことにより、一人一人のスペースを確保している。その中でおもちゃや本を読むなど個々に自由なことをする活動。
大人：全員でプログラムに沿ってレクリエーションを行う集団活動。

【2】夏期療育キャンプ・海合宿

- ◆目的…学校や地域などから離れた非日常の中で、また非日常の人々の中で味わう様々な体験を豊かな余暇に繋げる。
- ◆キャンプ内容…ウォークラリー
自然博物館見学
うどん作り
キャンプファイヤー・花火
レクリエーション
- ◆海合宿内容…海水浴
プール
花火

【3】運動会・クリスマス会

- ◆目的…季節の行事を通して、ボランティアの自閉症についての理解を深める。
- ◆運動会内容…キャンプでやったレクリエーションと同じものの他に、綱引き・玉入れ・パン食い競争など
- ◆クリスマス会内容…各学校のボランティアに企画してもらったレクリエーションを行う
(ペープサート・的当て・わなげなど)
クリスマスソング
プレゼント交換

【4】参加者の様子

- ◆Kくん(中3/男子)…普段の活動でも担当ボランティアはつけずフリーボランティアでの見守りのみで過ごすことが多い。自分から進んでレクリエーションに参加する姿はあまり見られなかったが、運動会ではパラシュートに自ら近づき、少ない時間、触れるだけではあったが、他の参加者と一緒に活動できた。彼にとってはものすごい成長でお母さんも私たちもすごく嬉しかった。ちなみにお母さんは彼が活動に参加する姿を写真に収めるために、辛抱強くカメラをスタンバイしていた。
- ◆Mさん(30代/男性)…最初のうちはプログラムに参加していなかったが、ヘルパーさんが色合せのボールを彼に手渡すとやってくれて、それから少しずつ活動に自ら参加するようになった。そして活動に参加する時間もだんだんと長くなっている。
※色合わせ…体育館に赤・青・黄・緑・白・桃のボールをバラバラにして置き、同じ色の箱の中に入れてもらう。

【5】まとめ

私たちは“自閉症”というものが何か理解しきれていなく、手探り状態から始めた自閉症支援だったが、年間を通して活動していく中で、保護者の方々、ヘルパーさん、OB・OGの方々の支えにより活動を行うことができ、より適切な支援ができるようになってきたと思っている。そして、私たちも彼らと共に成長できた。

また、自閉症を理解して適切な支援ができる人が増えることにより、自閉症の人が生活しやすい社会になっていくことを願っている。そのために、自閉症の啓発やボランティアの輪を広げることを目標にこれからもあすなる会として活動していきたい。